

21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究」『在地固有文書班』研究会  
臼井佐知子著『徽州商人の研究』について

2005 年 5 月 19 日  
臼井佐知子

本報告では、報告者が 2005 年 2 月に出版した著書『徽州商人の研究』（汲古書院）について、そこに書かれた徽州文書資料についての紹介と徽州文書など文書資料を用いて書いた部分を中心に解説を行った。

本書の構成は、序章と、商人に対する認識の変化および徽州商人とその活動について論じた第一部、徽州における典当と典当経営について論じた第二部、徽州における宗族関係について論じた第三部から成る。

序章では、第一節において、徽州地域の歴史を概観した後、第二節において、中国、日本、その他各国におけるこれまでの徽州研究を紹介し、徽州研究の現状と課題に言及し、徽州文書、族譜、日用類書など徽州研究を行ううえで重要な歴史資料について述べた。報告では、中国社会科学院歴史研究所故周紹泉氏から報告者に生前にわたされた関係者からの聞き取り調査メモをもとに記した、これまで些か不明確であった徽州文書収集の経緯について主に解説した。

本書において、徽州文書などの文書資料を主に用いて論じているのは、第二部第四章「徽州における典当と典当経営」、第五章、「典当業経営と利益配分 - 『清康熙三十六年徽州程氏應盤存収支總帳（清康熙三十五年至四十五年）』を資料として - 」、第三部第六章「宗族拡大組織化の様相 - 『拡大系統型族譜』の編纂 - 」第二節「宗教に対する影響」、第七章「承継と身分関係」、第八章「徽州における家産分割」である。報告では、第二部第五章で用いた帳簿の資料的価値、第七章に関わる「承継文書」など多様な文書資料について解説し、歴史論文作成において文書資料を具体的にどのように利用できるかを、その注意点を含めて示した。